



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	立川ブラインド工業株式会社札幌製作所新築工事	階数	2
建設地	北海道札幌市・地域区分:2	構造	S造
建物用途	事務所・工場	平均居住人員	40 人
竣工年	2027年5月 予定	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
敷地面積	7,320 m <sup>2</sup>	評価の段階	実施設計段階評価
建築面積	2,785 m <sup>2</sup>	評価の実施日	2025年11月12日
延床面積	2,785 m <sup>2</sup>	作成者	
		確認日	2015年11月15日
		確認者	

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★☆ **A**

S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

\* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm] **0.48**

ZEB/ZEH-Mランク **ZEB Ready**

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 3.2

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.9

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.5

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 省エネ・ウェルビーイングに配慮した最先端のブラインド組み立て工場	<b>A 省エネルギー</b> 高効率設備機器や照明制御の導入、外皮性能の向上によりZEB Readyを達成した。	
<b>B 省資源等</b> 照明器具はLEDの採用により高寿命化を図った。	<b>C 緑化</b> 札幌市緑の保全と創出に関する条例に基づく緑化率を確保し、様々な樹種選定により街並みへの景観配慮を行った。	<b>D 雪処理</b> 敷地内に堆雪スペースを確保し、敷地外に排雪することのないような計画とした。

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(一財)住宅・建築 SDGs 推進センターのCASBEE認証	なし	BELS認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用	-	LEED認証	なし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■環境品質Q = 25 × (Qのスコア - 1)、環境負荷L = 25 × (5 - LRのスコア)より算出

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>									
<b>Q1 室内環境</b>									
<b>1 音環境</b>									
1.1 室内騒音レベル		40< [騒音レベル] ≤45		3.0	0.40	-	-	3.2	
1.2 遮音				3.8	0.40	-	-		
1	開口部遮音性能	T-2以上		5.0	0.60	-	-		
2	界壁遮音性能	-		2.0	0.40	-	-		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	-		-	-	-	-		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)	-		-	-	-	-		
1.3 吸音		-		5.0	0.20	-	-		
<b>2 温熱環境</b>									
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		2.6
1	室温	-		3.0	0.38	-	-		
2	外皮性能	省エネ 窓システム、外壁、屋根や床(特にビロティ)において、室内への熱の侵入に対して、十分な配慮がなされており、最良の日射遮蔽性能および断熱性能を有する。 (窓システムSC:0.2程度、U=3.0(W/m2K)程度、外壁その他:U=1.0(W/m2K)程度)		3.0	0.25	-	-		
3	ゾーン別制御性	-		3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		加湿機能・除湿機能を有し、かつ45%~55%の範囲の湿度を実現することが可能な設備容量が確保されている。		1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		-		3.0	0.30	-	-		
<b>3 光・視環境</b>									
3.1 昼光利用				3.0	0.25	-	-	3.0	
1	昼光率	1.0% ≤ [昼光率] < 1.25%		2.0	0.60	-	-		
2	方位別開口	-		-	-	-	-		
3	昼光利用設備	省エネ		4.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1	昼光制御	省エネ		3.0	1.00	-	-		
3.3 照度		500lx ≤ [照度] < 750		4.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		室内の複数部分に対して端末、リモコン等で細かい照明制御ができる、または、自動照明制御ができる。		3.0	0.25	-	-		
<b>4 空気質環境</b>									
4.1 発生源対策				4.1	0.25	-	-		4.1
1	化学汚染物質	建築基準法を満たしており、かつ建築基準法規制対象外となる建築材料(告示対象外の建材およびJIS・JAS規格のF☆☆☆☆)をほぼ全面的(床・壁・天井・天井裏の面積の合計の90%以上の面積)に採用している。さらに、ホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量が少ない建材を全面的に採用している。		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				4.3	0.30	-	-		
1	換気量	中央管理方式の空調設備が設置されている居室の場合は30m <sup>3</sup> /h人以上。中央管理方式でない場合は建築基準法(シックハウス対応含む)および建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍となっている。		4.0	0.33	-	-		
2	自然換気性能	窓が開閉不可能な居室において、自然換気有効開口面積が25cm <sup>2</sup> /m <sup>2</sup> 以上。あるいは、窓が開閉可能な居室において、自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。あるいは、必要外気量の2倍以上の外気冷房の採用により室内空気質の向上が期待できる。		4.0	0.33	-	-		
3	取り入れ外気への配慮	空気取り入れ口は敷地周囲の状況を勘案して、汚染源のない方位に設けられている。かつ、各種排気口と異なる方位か、または3m以上離れて設置されている。		5.0	0.33	-	-		

4.3 運用管理				4.0	0.20		-	
1	CO <sub>2</sub> の監視		-	3.0	0.50		-	
2	喫煙の制御		-	5.0	0.50		-	
<b>Q2 サービス性能</b>					0.30	-	-	3.6
<b>1 機能性</b>				3.7	0.40		-	3.7
1.1 機能性・使いやすさ				2.6	0.40		-	
1	広さ・収納性		-	5.0	0.33		-	
2	高度情報通信設備対応		-	2.0	0.33		-	
3	バリアフリー計画		-	1.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性				4.3	0.30		-	
1	広さ感・景観		-	3.0	0.33		-	
2	リフレッシュスペース		-	5.0	0.33		-	
3	内装計画		-	5.0	0.33	1.0	-	
1.3 維持管理				4.5	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計		-	5.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保		-	4.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>				2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		-	3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		-	3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	-	2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	-	4.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性				2.8	0.20		-	
1	空調・換気設備		-	3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		-	3.0	0.20		-	
3	電気設備		-	3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		-	3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		-	2.0	0.20		-	
<b>3 対応性・更新性</b>				4.1	0.30		-	4.1
3.1 空間のゆとり				3.2	0.30		-	
1	階高のゆとり		-	2.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ		[壁長さ比率] <0.1	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			-	5.0	0.30		-	

3.3 設備の更新性				4.2	0.40		-	
1	空調配管の更新性		-	3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		-	4.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		-	5.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		-	5.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		-	5.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		-	4.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39		-	2.9
1 生物環境の保全と創出		緑化	-	2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		緑化	-	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30		-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	雪処理	-	2.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化	-	3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性								3.5
LR1 エネルギー				-	0.40		-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネ	BPI= 1.00 品確法=	-	2.0	0.20		2.0
2 自然エネルギー利用		省エネ	-	3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		省エネ	BEI= 0.48 ZEB Ready取得	5.0	0.50		-	5.0
4 効率的運用				2.0	0.20		-	2.0
集合住宅以外の評価				2.0	1.00		-	
4.1	モニタリング	省エネ	-	-	-		-	
4.2	運用管理体制	省エネ	-	2.0	1.00		-	
集合住宅の評価								
4.1	モニタリング	省エネ	-					
4.2	運用管理体制	省エネ	-					
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	3.3
1 水資源保護				3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水			-	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		-	3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.6	0.60		-	3.6
2.1 材料使用量の削減		省資源	-	3.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		省資源	-	3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		省資源	-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		省資源	-	5.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		省資源	-	5.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		省資源	-	3.0	0.20		-	

<b>3</b>	<b>汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>2.6</b>	0.20		-	<b>2.6</b>
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	<b>3.0</b>	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			<b>2.5</b>	0.70		-	
	1 消火剤	省資源	-	-	-		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	省資源	-	3.0	0.50		-	
	3 冷媒	省資源	-	2.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				<b>-</b>	<b>0.30</b>		<b>-</b>	<b>3.7</b>
<b>1</b>	<b>地球温暖化への配慮</b>	省資源	-	<b>4.3</b>	0.33		-	<b>4.3</b>
<b>2</b>	<b>地域環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33		-	<b>3.5</b>
	2.1 大気汚染防止	省資源	-	<b>5.0</b>	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 緑化 雪処理	-	<b>3.0</b>	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.0</b>	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減	省資源	-	3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制		-	4.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	-	2.0	0.25		-	
<b>3</b>	<b>周辺環境への配慮</b>			<b>3.3</b>	0.33		-	<b>3.3</b>
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40		-	
	1 騒音		-	3.0	0.50		-	
	2 振動		-	3.0	0.50		-	
	3 悪臭		-	-	-		-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40		-	
	1 風害の抑制		-	3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制		-	1.0	-		-	
	3 日照阻害の抑制		-	3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制			<b>4.7</b>	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	5.0	0.70		-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	4.0	0.30		-	



■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2021v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2021(ver.1.0)

## 1 建物概要

建物名称	立川プラインド工業株式会社札幌製作所新築工事	BEE	1.6	BEEランク	A
建物用途	事務所・工場				
延床面積	2,785.1 m <sup>2</sup>				

## 2 重点項目への取り組み

## レーダーチャート



## 3. 重点項目のCASBEEスコア

A 省エネルギー ( 最高点 22.4 最低点 5.6 )		合計		15.9点 / 22.4点	
Q1 温熱環境	スコア	0.4 / 0.8	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	1.6 / 4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.1 / 1.6	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 / 2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	10.0 / 10.0
			LR1 効率的運用	スコア	1.6 / 4.0
B 省資源等 ( 最高点 24.3 最低点 7.8 )		合計		17.4点 / 24.3点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6 / 1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	6.5 / 9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.8 / 2.9	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.1 / 1.9
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.3 / 5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	3.1 / 4.4
C 緑化 ( 最高点 19.0 最低点 3.8 )		合計		11.8点 / 19.0点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	2.3 / 5.8	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5 / 2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	6.2 / 7.8			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.8 / 2.9			
D 雪処理 ( 最高点 3.0 最低点 0 )		合計		2.0点 / 3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 / 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0 / 2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数